

全学共通科目 総合系科目

2025年度 陸前高田プロジェクト

ー海外の大学生と協働する震災復興に関する課題基盤型学習ー



募集説明会

2025年4月

立教大学グローバル教育センター

※説明会の様子は録画し募集サイトにアップロード予定です

陸前高田市の状況

- ・東日本大震災から14年
- ・震度6弱、津波の高さは建物の4～5 階相当まで達した
- ・当時の津波等の犠牲者数:1,700名超 /当時人口24,246名
- ・復興工事が進み、約10メートルのかさ上げ工事や
2020年12月には住宅再建用の宅地造成が完了。
2021年新市庁舎完成
- ・震災から約10年の年月をかけて復興の基盤が整えられ、
新たなまちの姿が広がりを見せている
- ・街づくり、まちの活性化の課題は続く
- ・多くの人々が当時の様子と復興の歩み、現状を知る大切さ

1. 陸前高田市と立教大学

震災以前～震災時の関わり

- ・立教大学の体験重視の教育活動として学生部の「**林業体験プログラム**」を実施
 - 2003年度～陸前高田市矢作町生出(おいで)地区にて
 - 同地区コミュニティ推進協議会、市役所職員、市民の方々との間に友好関係
 - ・東日本大震災で中心市街地全域が津波で壊滅的な被害に遭う
- ⇒長年交流があった陸前高田市を全学的な「**重点支援地域**」として復興支援



震災後の関わり 〈ピックアップ〉



2012年5月23日 陸前高田市との連携・交流協定を締結

- 目的:陸前高田市の復興に向けた地域課題の解決と地域活性化の実現に寄与
- 教育・文化・福祉・産業等・市の地域活性化、人材育成、研究等の多様な分野で包括的に連携・協力。

2017年4月 陸前高田グローバルキャンパス 開設 立教大学陸前高田サテライト 開設

- 陸前高田グローバルキャンパス:陸前高田市、岩手大学、立教大学が協力。
- 市民、国内外の大学生・研究者、NPO・企業が集う新たな対話と創造の場所として陸前高田サテライトキャンパスを設置。コンセプト:「つたえる、つなぐ、つくる」

2024年 陸前高田グローバルキャンパス 閉所(3月) 立教大学陸前高田サテライト 新拠点開設予定

立教大学の東日本大震災復興支援活動の経緯概要

- 震災直後 教職員・学生有志による復興支援が検討・開始される
- 2011年4月 「東日本大震災に伴う立教大学の復興支援活動指針」を策定
 - 同指針に基づき、「立教大学東日本大震災復興支援本部」設置
 - コミュニティ福祉学部が「復興支援推進室」を設置
- 2011年 6月 長年にわたり本学と交流のあった岩手県陸前高田市を全学的な「重点支援地域」に指定
- 2012年5月 陸前高田市との連携・交流協定を締結
- 2017年4月 陸前高田サテライト(陸前高田グローバルキャンパス)開設
- ~現在 学内の複数の機関がそれぞれの専門性を活かした取り組みを実施

- 陸前高田サテライト/グローバルキャンパス主催プログラム「陸前高田イタルトコロ大学」(地元ニーズと全国の団体等とのマッチング)
- 文学部、異文化コミュニケーション学部等の授業・支援活動、ゼミ合宿
- グローバル教育センター等の全学部生向け授業
- 学生部、ボランティアセンター等による支援活動
- 林業体験、体育会による野球教室、バレーボール教室等
- 復興支援本部主催のボランティア活動
- 職員研修、学内交流展の開催 等

(終了した活動含む)

東日本大震災に伴う立教大学の復興支援活動指針

【基本理念】 「共に生きる」

これまで大切にしてきた陸前高田の皆様との
出会い・対話・交流をさらに深め「人」の活力創りを支えます

【活動方針】

- 息長く、学生・教職員が足を運びます
- 「陸前高田」を積極的に発信します
- 陸前高田に根差した学習・研究に取り組みます

2.「陸前高田プロジェクト」の 成り立ちとプログラムのつくり

プログラムの成り立ち

東日本大震災に伴う立教大学の復興支援活動指針の
基本理念・活動方針に基づき、グローバル教育センターでは
「陸前高田プロジェクト」を運営開始

- ・2013年度～パイロット開始
- ・海外の大学生との協働
- ・陸前高田市の抱える課題解決に取り組むプログラム
- ・これまで約140名の立教生が参加

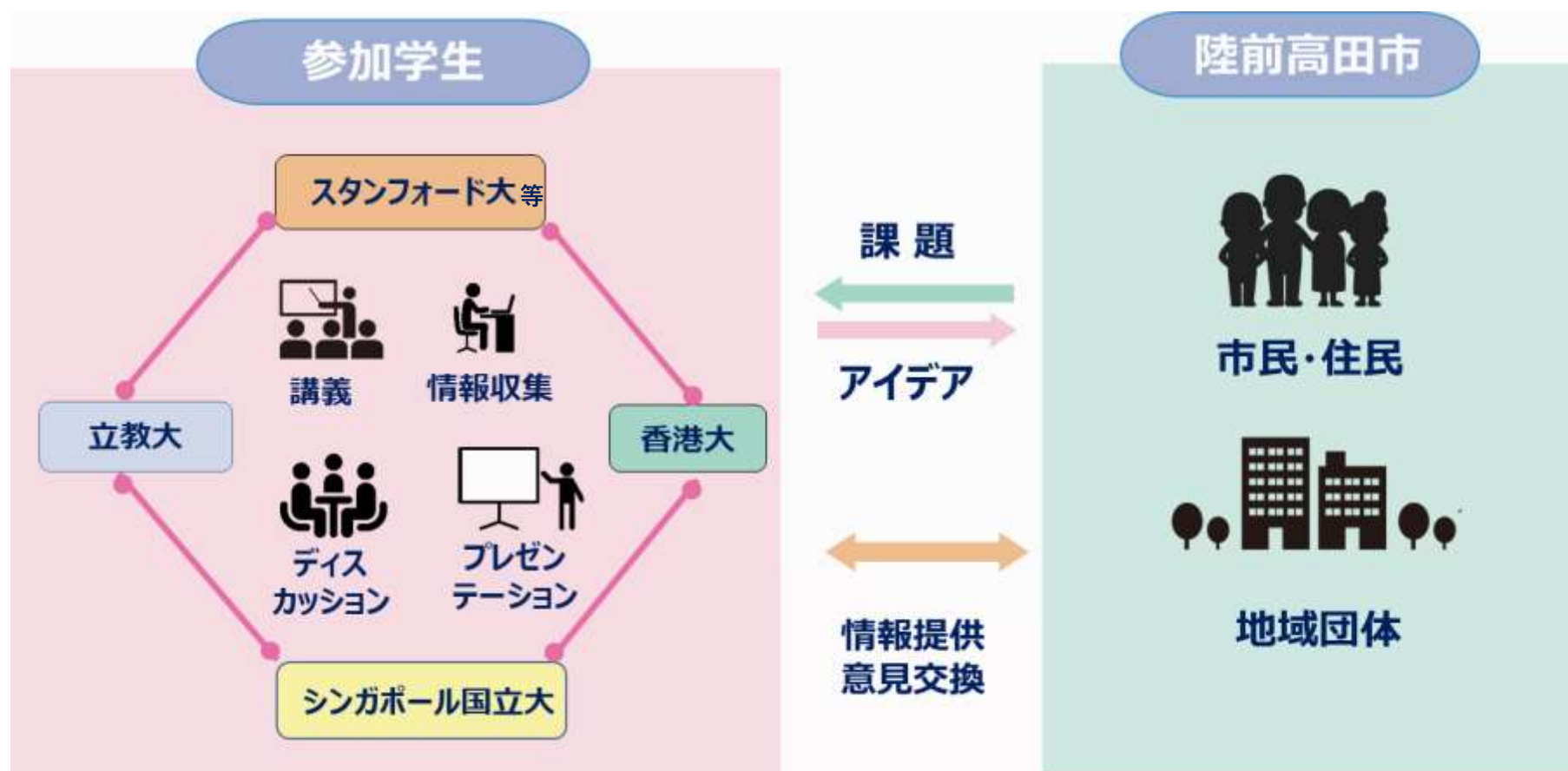
プログラムの目的

- ・陸前高田市の被災当時の状況やこれまでの取り組み、現状を自身の体験として知る
- ・市や市民の方々の抱える課題を共有する
- ・海外大学生も交え、多様な視点で課題に向き合い、深く思考し発信する

プログラムの学習形態

課題基盤型学習プログラム (PBL: Project-based Learning Program)

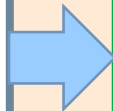
身近な問題や事例に関し, 具体的な対応を考える実践的学習形態



基本プログラム構成

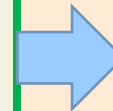
事前研修

- ・震災および復興支援に関する事前調査学習
- ・現地研修準備
- ・目的確認・目標設定
- ・チーム学習
- ・現地訪問前の心構え確認



現地研修

- ・市内視察
- ・情報収集
- ・市関係者による講話
- ・市の方々との意見交換
- ・民家訪問
- ・グループワーク



事後研修

- ・グループワーク
- ・成果発表
- ・振り返り

2024年度のプログラムの様子は
こちら

3. 今年度のプログラム内容

目標・学び

今一度、

◆プログラム目標

- ・陸前高田市の被災当時の状況やこれまでの取り組み、現状を自身の体験として知る
- ・市や市民の抱える課題を共有する
- ・海外大学生を交え、多様な視点で課題に向き合い、深く思考し発信する

目標・学び

◆学習効果

- ・市のこれまでの歩みと現在を自身の体験を通じて知る
- ・現実的な課題に対する提案力，論理的思考力，課題解決能力，発信力の伸長，リーダーシップの養成
- ・協働学習を通じて、異文化理解力・交流力を高める
- ・英語でのコミュニケーション，ディスカッション，プレゼンテーション、レポート作成能力等を高める

【テーマ】

「陸前高田市の歩みから持続可能な都市について学び、
地方都市が持続可能な都市となるために
自分たちにできることを考えよう」

ー SDGs「11 住み続けられるまちづくりを」の視点からー

【取り組み内容】

- ・陸前高田市フィールドワーク(市内視察・市の方々による講話)
 - 被災当時、これまでの歩み、現在の状況を知る
- ・グループディスカッション、グループ発表
 - テーマに基づいた話し合い等

【参加大学】

立教大学

スタンフォード大学等アメリカの大学、

香港大学

シンガポール国立大学(予定)

計20名程度予定(立教生10名・海外大生計10名程度)

【使用言語】

英語

【スケジュール】

- 事前研修: 7月12日(土) 14:30-17:30 @池袋キャンパス(立教生のみ)
- 事前研修: 8月23日(土) @池袋キャンパス(海外大学生合流)
- 現地研修: 8月24日(日)～8月28日(木) @陸前高田市
- 事後研修: 8月29日(金) @池袋キャンパス

・8月の日程は各日、終日予定を空けておいてください

※全日程に参加できることが参加(申込)条件

【担当教員】



高井 明子先生

グローバル教育センター 客員教員

Save the Children Japan 専務理事・事務局長



Yuki Ueda先生

VIA [Volunteers in Asia] PROGRAM DIRECTOR

【サポーター】 Junior TA 2名



石川 マリンさん 経営学部 国際経営学科 3年

(2023年度 プログラム参加)



中野 太陽さん 文学部 文学科 文芸・思想専修 3年

(2024年度 プログラム参加)

【参加費関連】

1. 費用

- ・プログラム費(参加者からの集金予定額): 2～3万円程度

※現地研修にかかる往復交通費、宿泊費、一部食費含む

グループ行動など分かれて食事を摂る場合はプログラム費と別に個別支払う

※実質5～6万円程度必要となるところ、下記の援助金支給額を相殺して集金予定

※自己都合による不参加の場合キャンセル料が発生する可能性あり

2. 陸前高田サテライト利用に係る交通費・宿泊費援助金

- ・前年度実績: 38,000円支給(金額変更可能性あり)

3. プログラム運営費

本プログラムは、

- 株式会社オービックビジネスコンサルタント様
- 株式会社大塚商会様

よりいただいた指定寄付により、

上記個人が支払う他に必要なプログラム運営費を負担し実施しています

4. 2025年度 募集要領

【応募概要】

1. 応募対象:学部生(1～4年生), 全学部対象

2. 募集人数:10名程度

3. 応募資格・参加条件:

①2025年度春学期に在学していること

※当該学期に本科目を履修登録可能な状況であること

※在学8学期目以降の学生は履修登録・参加不可

②英語によるコミュニケーション能力を有し、かつプログラム中
英語でコミュニケーションを行う意志のあるもの

③事前研修・現地研修・事後研修の全日程に参加可能であること

4. 申込方法・提出書類:

[申込方法]指定の申込フォームより申込受付[募集サイト参照]

[提出物] ①成績参照画面PDF

②英語能力証明書の写し

③自己PR動画(詳細は募集要項に掲載)

【履修登録・成績】

1. 要確認 : [R Guide](#)および[シラバス](#)を確認のこと。
科目名「陸前高田プロジェクト」
2. 開講学期: 春学期期間外科目（選考合格者を大学が履修登録）
3. 対象学年: 全学部生 1～4年次生
4. 単位数 : 2単位
5. 科目展開区分: 全学共通科目 総合系科目 多彩な学び

【履修登録・成績】

6. 履修登録上限:

全学共通科目総合系科目の年間履修登録上限(12 単位)に算入される

例)

総合系科目の春学期における履修登録上限(6 単位)まですでに履修登録している場合を含め、総合系科目の年間履修上限単位(12 単位)および各学部の定める年間の履修登録上限に達していない場合はその範囲内で本科目を履修することができる。

7. 履修登録に関する注意事項:

- 履修中止不可
- 登録済の別の春学期科目(集中科目等)と実施日時が重複する場合参加不可
- 追試験期間と本科目の研修日時が重複し追試験を受験できない可能性も想定しうるが、本科目参加を理由に既定の追試験日程を変更することはできない

8. 成績評価方法:シラバス参照

プログラム参加度(海外大学生合流後の研修, 事後研修含む)(70%),

授業参加度(事前学習)(20%), レポート(10%)

評価は「合格」または「不合格」

【応募・選考スケジュール】

1. 応募締切

5月28日(水)17:00【締切厳守】

2. 書類等提出物による選考

フォーム入力内容、提出物、提出動画による選考

※6/3までに結果通知

3. オンライン面接選考

6月4日(水)～7日(土)の指定時間帯

※英語・日本語。時間帯は申込フォームで確認。

4. 合格者確定

6月10日頃 ※参加決定後の自己都合による参加辞退は不可

過年度参加者の話を聞いてみよう！ 「陸前高田プロジェクト」参加者の体験談

※2025年度Junior TA

経営学部 国際経営学科 3年
石川さん（3年 ※プログラム参加時:1年）

文学部 文学科 文芸・思想専修
中野さん（3年 ※プログラム参加時:2年）



Q1.
陸前高田プロジェクトへの参加動機

石川さん

- ・東日本大震災について学び次の世代に伝えたいと考えていた
- ・海外の学生たちと一緒に学ぶことで視野を広げられると思った
- ・陸前高田市の復興の軌跡を辿り、持続可能な都市について考えたかった。現地で得た学びを自分の故郷でも応用し、人口減少の問題を抱える地元を助けたいと思った

中野さん

- ・以前、姉が宮城県で行われた大学生による震災復興プロジェクトに参加した体験談を聞き、被災地の現状に興味を持ったのがきっかけ
- ・海外の大学生と交流してみたいと思ったのも理由の一つ

Q2.
現地研修で最も印象的だったこと、感じたこと

石川さん

- ・震災の被害をリアルに感じたこと
- ・民泊などを通じて現地の方とたくさんの繋がりを持てたこと
- ・現地を実際に訪れたからこそ得られた学びや経験が本当にたくさんあった

中野さん

- ・今なお残っている地震や津波の痕跡見学、民家訪問を通しておうかがいする現地の方々の声や考え方がとても印象的だった

Q3.
海外大学生や立教生とのグループワークでの学び

石川さん

- ・海外学生の積極性は印象的だった
- ・異なるバックグラウンドを持つからこそ生まれる学び。話し合いを深める過程でそれぞれが住む国/地域を比較して話すことで、新たな視点から物事について考えることができた
- ・海外学生に感化され、留学への関心が高まった

中野さん

- ・英語と日本語、複数の言語を用いて色々なことを考えたというのは貴重な経験だった
- ・英語でどう伝えれば良いか立教生の皆と試行錯誤しながら、海外の大学生と仲を深め、彼らの考えを吸収できる機会になった

Q4.

このプログラムへの参加が、自身にどんな意味があったか

石川さん

- ・“やってみること”の重要性を学んだ
- ・実際に現地に行って学ぶことで得られるものがたくさんある
- ・新たな自分の一面を発見し、自分の将来についても考えるきっかけとなった

中野さん

- ・震災に関する一方的な見方や決めつけを見つめ直すきっかけとなった
- ・被災地の現状を理解しながら、自分にできることは何か、様々なアプローチの可能性について考えるようになった
- ・海外の大学生との交流を経て、英語に対する苦手意識が軽減された

Q5.
応募を検討している学生へのメッセージ

石川さん

- ・きっと想像以上に多くの学びが得られるプロジェクトだと思います
- ・国内留学のような体験ができるので興味のある人はぜひ参加してほしいです！

中野さん

- ・はじめて会う人たちと、しかも英語でコミュニケーションがとれるだろうかと不安に思っていた私はぎりぎりまでプロジェクトに応募するかどうか悩んでいました。けれどプロジェクトを通してその不安を上回る気づきや出会い、体験が得られたと思います
- ・私と同じような不安を感じている方も興味があればぜひ応募してみてください

Q&A



info

【グローバル教育センター】

池袋キャンパス マキムホール2階

email: cghrd-rtpj@rikkyo.ac.jp

HP : <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/>

X : @CGHRD_RIKKYO

instagram :「rikkyoglobalcenter」で検索

★過去のプログラムの様子公開中★